

委員からのメッセージ



地域学習(歴史)

「今、小谷っ子は」

学校運営協議会委員 小畑 とし子

今、小谷小学校は全校生徒104人の小さな学校ですが、子どもたち一人ひとりがまさに主役となるような授業や行事が展開されています。例えば、小谷教育の日の発表で、子どもたちは「自分がしっかりせねば」というような責任感と、自分の持てる力を出し切る頑張り、それをお互い認め合い、励まし合い、信頼し合い、クラス一丸となって本当に質の高い発表をしてくれました。感性を研ぎ澄ませ、魂のこもった、それでいて子どもらしい発表に思わず引き込まれ、感動すると同時に子どもたちを誇らしげに、また愛おしく思いました。事をやり遂げた喜びは自信に繋がり、大きな人間へとなっていく礎。これからも学校、家庭、地域という環境が有機的に繋がって、よりよい学びの場となるよう見守っていきたいと思います。



地域・環境・安全

「PTA活動を通して」

学校運営協議会委員 今井 稔治

PTA代表として学校運営協議会のメンバーに加わらせて頂きました。
PTA活動を行う上で学校の先生方、保護者の皆様はもちろん地域の皆様に支えられて成り立っているものだという事を強く感じる一年間でした。今後も、一保護者として、また地域の一人として協力させていただきたいと思っています。

「小谷っ子の子育て」

学校運営協議会委員 松橋 和夫

子育てについては、いろんな意見があります。その中で私は、「言うてはいけないこと」が大切と思っています。
それは「勉強しろ」です。これは子どもに言うのではなく、自分へのいましめとすべき言葉です。もちろん「我が子には勉強して欲しい」と願うのは親としての当然のことです。だから、何度も口から出そうになります。しかしその度に、自分が勉強している姿を子どもは見えていないのだと、反省します。というのは、いろんな人の姿を見て人は育っていくものであり、子どもは親の姿を一番よく見ているのだから…。

「読み聞かせを続けて」

学校運営協議会委員 柴山 靖子

地域支援の傍ら、読み聞かせのボランティアをしてもうすぐ12年になります。毎回楽しい本を選んで読んでいます。学年により反応はさまざまで、低学年は素直に笑ってくれますが、高学年になるとオチのところでも静か。「ここで笑うところ」なのですが、心の中で笑ってあげればいいのかとそのまま続けて読んでいます。楽しい本に出会った時は自分も喜んでいきます。
子どもたちには、読み聞かせを通して本に親しみ、話を聞く力を養ってほしいと願っています。



読書

「自然と親しむ」

学校運営協議会委員 清水 幸男

28年度初めて委員に参加させて頂きました。新しい取組として「星空観察会」が3回行われ、多くの親子の参加がありました。子どもたちと親と一緒に目を輝かせて楽しめる、こんな活動はあまりありません。テレビやゲームに熱中する今時の子どもたちも、山や川で遊ぶ機会があれば、その面白さに夢中になるはず。来年度は、小谷の自然を活かした「川の生き物調べ」等の自然を楽しむ活動を、もう少し増やせばいいなと思っています。皆さんもぜひ参加してください。



地域学習(自然)

「おかげさま」「ありがとう」の心

学校運営協議会委員 丁野 真美

「おかげさま」「ありがとう」は、この小谷の地域では、よく交わす土徳(どとく)の言葉です。ややもすると、現代社会は個人の利益や楽しみが優先され、ささいなことでのいさかきも絶えません。
現在子どもたちが社会を担う頃、世の中は、システムが大きく変わっていると言われています。
そんな社会で、強く逞しく心豊かに生きていってもらうためには、今以上に「ありがとう」「おかげさま」と感謝し、他者を思いやるコミュニケーション力が大切だと思います。人としての人格を育てる幼児期～学童期に、心をこめて伝えていかなければと思っています。